



仮屋先生に技術指導をお願いした

シリーズ ■ 中学校武道

授業の充実に向けて ⑦

外部指導員の活用例 柔道

鹿嶋市立鹿野中学校 教諭 三塚 太一

茨城県鹿嶋市は、県の南東部に位置し、人口約6万7千人の都市である。鹿島灘に臨んでコンビナートが立ち並び、工業都市として栄えている。市内には「武」の神様として知られる武甕槌大神たけみかづちのおおをご祭神とする鹿島神宮があり、また、剣聖・塚原卜伝つかはらぼくでん生誕の地であるなど、武道になじみのある土地となっている。他にもJリーグチームの鹿島アントラーズの本拠地があるなど、市民のスポーツ熱が高い土地柄といえる。

本校では平成24年度の武道必修化以前の平成19年度より、1、2年生に柔道授業を導入しており、外部指導員として仮屋茂氏しやうへいを招聘している。その柔道授業の実践と取組を紹介する。



鹿野中学校外観

1 柔道導入の経緯

私が本校に赴任した平成18年度は、武道授業として剣道を行っていた。しかし、竹刀の本数が足りず、近隣の他校から借りてようやく授業が行えるといった状態で、防具も人数分そろっていないなかたので、実際に攻防を展開するまでにはいたらなかった。どうしたものかと思案していたところ、市が

3 生徒の様子

最近の子供たちは、日常生活の中で身体的な触れあいのある遊びを経験していない者が多く、柔道の授業で初めて体験するのがほとんどである。柔道を通して、人と組み合ったり技を掛け合うことで自然と身体的な触れ合いが生じ、それが生徒同士の精神的な距離の縮まりにつながっているように感じている。生徒の中には、授業後の感想として、「相手のことを考えるきっかけになった」とや、「友人との仲が深まった」という意見も多く聞かれた。

平成25年度は授業計画の10時間のうち、仮屋先生が入ったのは半分の5時間程度となった。本校には剣道場と柔道場が並んだ武道場があり、柔道の授業は柔道場で行っている。柔道の授業を行う時は、仮屋先生がお持ちくださった柔道関係のポスターなどを壁に貼り、雰囲気作りを行った。

2 授業の実際

武道授業のサポートを行っていること知り、柔道の仮屋茂先生にお越しいただくことになった。

仮屋先生からは柔道の考え方がうかがい、授業の全体の流れを打ち合わせて、実際に授業に入ってもらった。

柔道を導入した平成19年度から5年間は、仮屋先生の都合に合わせて、保健体育を2時間連続のコマとし、それを5回で合計10時間の授業時間を確保した。授業の中では技術指導の多くを仮屋先生にお願いしたのが実情である。

柔道に対する考え方という意味では、生徒の授業後の様子や感想文などからも180度変わったことがわかる。授業前は「痛い」「怖い」というイメージが大半を占めており、柔道授業に対する積極的な姿勢は見られなかった。しかし、仮屋先生は、体づくり運動に近い運動を多く取り入れ、畳や柔道衣に

平成 25 年度 第 1 学年 柔道単元計画

回数	指導内容	評価規準
1	①柔道衣の部位の名称及び着方 ②安全な学習の約束（爪、髪など） ③柔道の特性や伝統的な考え方	○柔道衣の着方のポイントを理解して着ることができる。＜思＞ ○柔道の特性や伝統的な考え方を理解することができる。＜知＞
2	①礼法（座礼、立礼の仕方） ②後ろ受け身	○礼法の仕方のポイントを理解して座礼、立礼ができる。＜思＞
3	①学習のパートナーの決定 ②後ろ受け身 ③固め技の基本姿勢	○学習のパートナーと協力して、身の回りの安全に注意しようとする。＜関＞ ○説明と示範の動きやポイントを理解して、後ろ受け身ができる。＜技＞
4	①後ろ受け身 ②袈裟固め ③約束練習で 10 秒抑え込み ④固め技の自由練習	○固め技のポイントを理解することができる。＜思＞
5	①後ろ受け身 ②袈裟固めの確認 ③横四方固め ④約束練習で 10 秒抑え込み ⑤固め技の自由練習	○説明と示範の動きやポイントを理解して、袈裟固めができる。＜技＞ ○身の回りの安全に気を付けて練習ができる。＜関＞
6	①後ろ受け身 ②横四方固めの確認 ③横受け身 ④崩しの方向（四方の崩し） ⑤進退動作、体さばき	○説明と示範の動きやポイントを理解して、横四方固めができる。＜技＞ ○ポイントを理解して、後ろ受け身や横受け身ができる。＜技＞
7	①受け身 ②崩しの方向、体さばき ③膝車のかかり練習	○説明と示範の動きやポイントを理解して、横受け身ができる。＜技＞ ○崩しの方向と体さばきについて理解することができる。＜知＞
8	①受け身 ②固め技の自由練習 ③膝車のかかり練習、約束練習 ④体落としのかかり練習	○仲間と協力して、固め技の自由練習を行うことができる。＜関＞ ○説明と示範の動きやポイントを理解して、崩しと体さばきを使った投げ技ができる。＜技＞ ○投げ技の名称や行い方を理解することができる。＜知＞
9	①受け身 ②固め技の自由練習 ③固め技の試合（審判・約束） ④体落としのかかり練習、約束練習	○仲間と協力して練習することができる。＜関＞ ○相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ることができる。＜関＞ ○説明と示範の動きやポイントを理解して、崩しと体さばきを使った投げ技ができる。＜技＞
10	①受け身 ②固め技の試合 ③既習技のかかり練習、約束練習 ④技の発表 ⑤まとめ	○相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ることができる。＜関＞ ○既習の技を正しくかけたり、受け身をとることができる。＜技＞

親しみながら、楽しく授業を展開するため、生徒たちは「またやりたい」という気持ちになったようである。

また私自身、中学から大学まで授業で剣道を履修していたため、柔道に関する専門的な知識が少なく、オリンピック中継で観る程度だった。そのため、授業で行うようになった際には、投げ技や受け身をしつかりと行うイメージを持っており、「怪我をしそうだな」と思っていたことは否めない。しかし、仮屋先生の授業に立ち会って、こういう授業の仕方があるのかと目を開かされる思いだった。

安全対策 4

柔道場は畳だが、投げ技を指導する際には、畳の上に器械体操用のマットを敷いて、その上で投げ技を実施するようにしている。そのため、柔道授業を始めてから現在まで、授業中の怪我は起こっていない。

平成22年に、学校現場における主として部活動中の柔道事故が世間で騒がれた時には、生徒をはじめ、保護者、地域の方の目が厳しくなると感じた。特に柔道衣を購入する際に、保護者から「どう

しても柔道でなくてはだめなのか」といった疑問を呈されたこともあった。安全第一で授業を行うことや、生徒にとつて柔道は多くのことを学べると説明してご理解いただいたが、教員の立場としてはやりにくかったというのが率直な感想だ。

前述のように、本校の柔道授業は外部指導員に技術指導の多くを頼っている状況である。しかし、理想をいえば保健体育科教員がしっかりと指導力をつけ、外部指導員を活用しながら指導するべきである。そして、指導の内容により、時には専門家として外部指導員に入っていただければと思う。

平成25年度は私が技術指導を含めて授業を行った。2クラスある1年生のうち、1クラスの基本的な授業、具体的には3〜6時限目を



授業前にマットを運び（写真上）、投げ技は必ずマットの上で実施する（写真下）



仮屋先生は生徒の興味を引く柔道の話を手上にされる



技を掛け合う時は必ず礼をさせることも忘れない

かし、私の考えを披露することで、読者の方々にとって何かの参考になればと思います、恥ずかしながら筆を執らせていただいた。

授業で大切なことは、技ができる楽しさや喜びを生徒たちに味わわせることである。その目標に向かうにあたっては相手を尊重したり、安全に気をつかわなければいけないし、課題に応じた工夫もできるようなしなればいけない。

この目標を達成するにはまだ自身の指導力に不安を感じるし、保健体育科の授業として、現状が理想の形ではないと思っている。

継続的に研修会に参加するなどして、指導力の向上を図り、自信を持って柔道授業を行えるようにしたい。そしていつか、私の柔道授業を受けた生徒から「もっと柔道の授業をしたい」という言葉が聞ければ幸せである。

私が一人で担当したが、最終授業の実技で、生徒たちの投げ技や受け身は、仮屋先生を活用した授業を行ったもう一方のクラスの生徒と遜色ない出来だったように見えた。それが私にとっては大きな自信となった。

ただ、仮屋先生は柔道の専門的な指導者であるため、指導中の間の取り方や柔道に関する話がとても上手いのも事実である。例えば、柔道を創始した嘉納治五郎は身体が小さく、虚弱体質でいじめられていたことや、ロサンゼルス五輪金メダルの山下泰裕氏が小さい頃は腕白坊主で手が付けられなかったのが、柔道に出合ってから、素晴らしい人物になったことなど、生徒たちは興味深そうに聞いている。

私が授業を行うと、特に柔道では怪我が怖いので、とにかく生徒に集中させて行おうが、仮屋先生は生徒のつぼを押さえて笑いを取り、和やかな雰囲気を作る。生徒からは「今日は仮屋先生いるんですか」と聞かれることも度々で、やはり生徒としては楽しみのようだ。

以上、述べてきたように、これまで本校で行ってきた柔道授業は、外部指導員の仮屋先生に技術指導の多くを頼ってきたのが現状である。そのため今回の執筆については辞退することも考えた。し

6
まとめ

すでに複数年にわたって仮屋先生の授業を見ており、前述のように25年度の授業では少しながら指導に対する自信もついた。今後は外部指導員との連携を考えて指導にあたることを考えていきたい。

もう一点課題を挙げるとするならば、外部指導員とのコミュニケーションをもっと取るべきだと思っている。仮屋先生はお忙しい方なので、授業が終わると帰られてしまうし、私も給食指導などがあり、なかなか時間が取れないというのが実情ではある。それでも授業について細かい部分まで打ち合わせをした方が、より良い指導ができるのは間違いない。



いろいろな場面で生徒を皆の前に出し、誰もが主役になれるように授業を展開する。そして必ず褒めるのが仮屋先生のやり方である

快適で安全な都市空間の創造をめざす …東洋実業グループ

- ビルディング・トータル・マネジメント
- 清掃等建築物の環境衛生管理
- 空調、電気、水系統等諸設備の運用、管理
- 警備、保安、駐車場管理
- 原子力セキュリティ及び施設メンテナンス
- 工場、ダム等のセキュリティ
- 案内、受付他料金徴集業務
- 公園等のグリーンメンテナンス
- ビルメンテナンス用ソフトの開発販売
- バイオ研究開発
- その他建築物の運用、管理に係る一切の業務



代表取締役 横田 正弘

札幌本社 / 札幌市中央区北六条西22丁目250番14東実ビル TEL(011)612-1911(代)
 東京本社 / 東京都新宿区西新宿1丁目26番2号新宿野村ビル TEL(03)3345-0531
 営業所 / 函館・室蘭・苫小牧・千歳・恵庭・小樽・余市・岩内・石狩・岩見沢・旭川
 士別・富良野・占冠・帯広・北見・釧路・日高・遠別・深川・埼玉
 海外事業 / 株式会社東洋実業マレーシア / 東洋実業シンガポール PTE. LTD. / 東洋
 セキュリティ&ビルディング・マネジメント (香港) LTD./